

ハイフォン市でのプロジェクト研究成果発表  
(2023年11月15日)

本プロジェクトは SATREPS と呼ばれる技術協力の枠組みで行われております。正式名称は「地球規模課題対応国際科学技術協力」と言い、地球規模課題の解決のために日本と現地の研究者による共同研究を通じて行われる技術協力です。共同研究という活動を通じての技術協力であることから、その研究成果を国内外に向けて発表するのも重要な活動の一つです。今回はベトナム保健省 HIV/AIDS 予防局(VAAC)からハイフォン市での学会の招待を受けて、永井プロジェクト専門家がプロジェクト研究成果の中から、PrEP（曝露前予防内服）プログラム参加者における薬剤耐性 HIV ウイルスについて発表しました。プロジェクトでは、コミュニティ内で薬剤耐性ウイルスが増えている場合、PrEP で使用する内服薬に耐性のある HIV ウイルスにより PrEP の効果が減少するのではないかという懸念・仮説に基づき、調査を実施しています。



プロジェクト研究成果を発表する永井専門家

調査の結果から、過去4年間のPrEP参加者における新規HIV感染者については、薬剤耐性ウイルスに曝露したことによる感染（伝播性薬剤耐性）の頻度は低く抑えられていることがわかりました。また、PrEP中にHIV陽性となった人の約8割は薬剤耐性がなく、PrEPで使用する薬剤に対する耐性を持つ人も少なかったため、PrEP使用中のHIV感染の主な原因は適切に服薬を継続していない（アドヒアランス不良）可能性が高いと考えられます。プロジェクトで懸念していた伝播性薬剤耐性ウイルスの増加によるPrEPの効果減少は現時点では起きていない可能性が高いと言えます。

プロジェクト最終盤を迎え、今後もプロジェクトで実施してきた研究成果を多くの方に知っていただけるよう、引き続き研究発表活動にも力を入れていきます。